

高浜市社会福祉協議会だより

# ふくし

題字：白藤会友 井野99丸氏

高浜市出身の書道家悠理先生と書道アートを挑戦しました。  
今年もよい年になるように願いをこめて未（ひつし）を描いたよ。  
カッコいいでしょ！（高浜小学校あすなる学級）



# これからは、さらに

# 地域での「見守り・支えあい」が重要です!



近年、孤立死や虐待、自殺など社会的孤立が背景にある痛ましい事件が後を絶ちません。一方、事件が起こる前に、暮らしづらさを抱えた人、気になる人のちょっとした異変やSOSを早期に気づくための見守り活動、さらには絆をつなぐ支えあい活動など、住民同士による“お互いさま”の取り組みが広がりつつあります。

高浜でも、こうした地域での見守り支えあい活動が始まっています。今回は「地域での見守り支えあい活動」に目を向けてみましょう。



## 気になるデータ

### 1 超高齢化 2.5人に1人

#### ◆ 総人口に占める「高齢者人口（65歳以上）」の割合（39.9%）

（内閣府：平成26年版高齢社会白書より）

日本の総人口は1億2713万2千人（総務省：平成26年7月1日現在）で、65歳以上の高齢者人口は3296万人で高齢化率は25.9%です。

今後、総人口は減少し続け平成60年には1億人を割り、平成72年には9000万人となり高齢化率は39.9%で2.5人に1人が65歳以上の高齢者になると推計されています。

生産年齢人口（15～64歳の人口）は平成22年から減少し続け、平成25年10月には総人口の6.2%、平成72年には4418万人となり人口の約50%に減少すると推計されています。

#### 高浜市の人口

平成27年1月1日現在の人口は4万6295人で高齢化率は18.7%で、人口に占める生産年齢人口の割合は65%です。

高浜市の高齢化率は全国平均より低い状況にありますが、確実に上昇傾向にあります。

### 2 認知症高齢者の増加 7人に1人

#### ◆ 65歳以上の高齢者に占める認知症の人の割合（15%）

「都市部における認知症有病率と認知症の生活機能障害への対応」（平成25年5月報告）

全国の認知症の人は平成24年で約462万人、65歳以上の高齢者3079万人の7人に1人と推計されています。また、正常と認知症の中間の状態の軽度認知障害（MCI）と推計される約400万人と合わせると、65歳以上の高齢者の約4人に1人が認知症の人またはその予備軍と言われています。

この数は高齢化の進展に伴いさらに増加が見込まれており、平成37年には認知症の人は約700万人前後になり、65歳以上の高齢者に対する割合は、現状の約7人に1人から約5人に1人に上昇することが見込まれています。

### 3 “家族力”の低下 2.71人

#### ◆ 高浜市における一般世帯の平均世帯人数

（平成22年国勢調査より）

高浜市の家族形態は、全国における2.42人（平成17年：2.55人）に比べ多いものの、世帯規模は年々縮小してきています。

高浜市の一般世帯1万6084世帯のうち核家族世帯（夫婦のみの世帯、夫婦と子どもからなる世帯、男親と子どもからなる世帯、女親と子どもからなる世帯）は9333世帯（58.03%）、単身世帯は4568世帯（28.40%）で核家族化が年々進行しています。

核家族世帯のうち高齢者夫婦世帯は1178世帯（12.62%）、また単身世帯のうち高齢者単身世帯は895世帯（19.59%）と増加しています。

## 4 つながりの希薄化 6.5人に1人

### ◆「家族以外の人」と交流のない人の割合(15.3%)

(厚生労働省社会保障審議会「生活困窮者の生活支援の在り方に関する特別部会」資料より)

経済・社会環境の変化、人々の意義の変化などにより、暮らしを共にするエリアにおける住民同士のつながりが希薄になり、日常的な生活面での協力関係はあまり見られなくなりました。

## 5 社会的孤立の増加 1日で73人

### ◆ 死後2日以上経過して遺体で見つかった65歳以上の高齢者2万6821人(年間)を1日あたりに換算した人数

[平成22年度「セルフ・ネグレクトと孤立死に関する実態調査と地域支援のあり方に関する調査研究報告書」(ニッセイ基礎研究所)より]

地域のつながりの希薄化、家族形態の縮小化が進む中、気になるのは「孤立」の問題です。特に、誰にも看取られることなく息を引き取り、その後相当期間放置される「孤立死」は、自分のことを諦めてしまうセルフネグレクトの状態にある人も多く、今後単身高齢者世帯の増加が予想される中、決して他人事ではない問題です。



地域で「見守り・支え合いを必要としている方」が増えています。

家の近くにお店がなくなったから買物に行くのが大変。誰かに買い物をしてもらいたい。

資源ゴミを分別収集拠点まで持っていくのは、骨が折れる。

最近は掃除をするだけでも疲れてしまう。だんだん掃除をしなくなり、整理整頓もできず部屋が乱雑。

部屋を片付けたいけど、重いものが動かせないので、結局片付かないままになっている。

**最近、  
こんな困りごとを  
耳にします**

福祉サービスの利用手続きをしたいけど、何べん聞いてもよくわからん。

自分の食事をつくるのも面倒になってきた。食べずに済ましてしまうこともある。

足腰が弱くなり、布団を干すのが大変になり最近は万年床状態。

何を、どこへしまったのか思い出せないことが多くなった。これから先が不安・・・

具合が悪くなった時、1人で病院へ行くのは不安。付き添ってくれる人がいると有難い。

認知症になって、家に帰れなくなったらどうしよう。ずっと高浜で暮らせるのかしら。

運転に自信がなくなってきたので、そろそろ免許を返納しようかと思う。しかし、足代わりの車は手放せないな。

困りごとの多くは、  
加齢に伴う身体機能の低下によるものです。

# 「お互い様」の こころが支える地域福祉



## ふれあいサービス

家事、介護、移送などのサービスをはじめ日常生活での「ちょっとした困りごと」に対するサービスを必要とする利用会員と、サービスを提供する協力会員による、市民参加と協力による相互扶助の精神に基づく活動です。

### <サービスは5種類>

- ・ 家事援助……………掃除、洗濯などの家事をお手伝い
- ・ 子育て支援……………ベビーシッターやお子様の送迎のお手伝い
- ・ 移送サービス……………車いすでの移動が大変な方の送迎をお手伝い
- ・ 介護サービス……………通院の付き添いや外出をお手伝い
- ・ 障がい者自立支援サービス…障がいのある方の自立に向けた活動をお手伝い



## 生活支援員派遣事業

高齢や障がい（知的障がい、精神障がい）により日常生活での判断能力に不安があり、在宅で生活している方に生活支援員が福祉サービスの利用手続きや生活費の管理、年金証書などの大切な書類の預かりなどのお手伝いをするサービスです。

この事業も、地域住民の方が生活支援員として活躍してくださっています。

## ● 小学校区を単位とした地域福祉活動 ●

### 見守り隊（高浜南部まちづくり協議会）

ひとり暮らしの高齢者世帯は市役所をはじめ様々な方法によって「安否確認・見守り活動」が行われています。しかし、高齢の親とその子からなる世帯などは見守りの対象とならない場合があります。

そこで、高浜南部まちづくり協議会では、75歳以上の日中ひとり暮らしになる高齢者のお宅を定期的に訪問する「見守り隊」を結成し、「安否確認・見守り」を地域活動として始めています。



### 青空市（高浜南部まちづくり協議会）

「地域で買い物に困っている高齢者がいる」という声を聞き、地域のお店屋さんの協力を得て毎週日曜日の午前9時から午前11時に高浜南部保育園の園庭で開催しています。

青空市は、買い物支援だけでなく、互いに安否を確認しあったり、雑談の中から困りごとのニーズをキャッチしたりと「地域のコミュニケーションの場」としての役割を担っています。



### こっこネット（吉浜まちづくり協議会）

「ゴミ出し」「家具の移動」「布団干し」など「地域で暮らす人たちのちょっとした困りごとをお手伝いしよう」との思いから、高齢者生きがいグループが中心となり活動を始めたのがきっかけです。まだまだ、依頼は少ないとのことですが、今後は必要とする人が必ず増えてくることが見込まれるので、地域住民が皆で支え合っていかなければならない活動だと思います。

## ● 新たな支え合い ●

### いきいき健康マイレージ (福祉ボランティア)

高齢者の健康づくりと生きがいづくりを兼ねて、気軽にボランティア活動に取り組んでいただけるように始めました。地域の支え合い活動を自らの健康づくりにつなげていただくお互い様の活動です。

現在、65歳以上の高齢者約230人が活動されています。

### Newボランティア人

家の草取りをするついでに歩道の草取りをしたり、家のゴミを出すついでに隣に暮らすひとり暮らしのおばあさんの家のゴミも一緒に出してあげたりするなど、何かのついでにちょっとした思いやりの行動をしている方をNewボランティア人と命名し奨励しています。こうした「おもいやり」の行動が地域に少しずつ広がっています。

## ● 通いの場、交流の場を支える ●

### 宅老所

市内には、介護予防を目的とした「宅老所」が5か所あります。高齢者が家に引きこもることなく地域に出て、家庭に近い雰囲気の中でお話したり、レクリエーションをしたりして一日を過ごすことができます。

宅老所では、昼食づくりやご利用者の話し相手などに地域のボランティア248人が中心となり支えてくれています。ここでも、ボランティアのお互い様のところで、皆さん安心して利用されています。



### ポッチャ

「ポッチャ」はパラリンピックの正式種目に採用されているニュースポーツです。障がい者だけでなく子どもから高齢者まで誰もが楽しめるスポーツです。高浜市ではスポーツとしてだけでなく、誰もが楽しめることから「コミュニケーションツール」として地域で顔の見えるまちづくりのため普及を進めています。

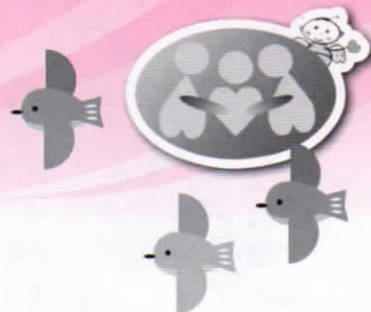
こうした活動の裏方として多くのボランティアさんが支えてくれています。



一度、地域を振り返って見ましょう。  
あなたの周りにも、困りごとを抱えている方がいるはずです。  
あなたにもできることがきっとあるはずです。  
「お互いさま」のところが、地域での「見守り・支えあい」を育てます。



# てとてとて



## ボランティア活動で元気をもらっています

### 「明日はどんな話を聴かせてもらえるのかな」

デイサービスで傾聴ボランティアを始めて今年で8年になります。キッカケは、当時の自治会長さんからデイサービス利用者の話し相手を勧められたことです。長いこと商売で、お客様の「お話」を伺うことをしていたので、「やれそうかな」と思いお手伝いさせていただくことにしました。

私と年も近い方たちで、若い頃の話など話題も共通するので、いい話し相手になっているのかなと感じます。最近、一緒にレクリエーションのカラオケに参加するなど相手が話しやすい雰囲気を作り出す工夫もできるようになり、会話が弾み時間を忘れるほどです。

また、若い職員の方も大勢みえるので、気持ちも若返ります。

今では、「明日は、どんな話を聴かせてもらえるのか?」と思いをめぐらしていると、デイサービスを訪問するのが待ち遠しくなります。



安藤 光雄さん  
霞池デイサービスセンターで  
傾聴ボランティア

### ボランティアは私の生きがい

私は裁縫が大好きで、家にはたくさんの布があり、以前から「何かに役立てられないかな」と思っていました。ちょうどその頃、いきいき健康マイレージ福祉ボランティア通帳の更新時期だったので、ボランティアコーディネーターさんに相談しました。

すぐに、ボランティアひろばセンターから連絡があり、施設の椅子カバーや利用者さんの小物を作るボランティアの依頼がありました。

裁縫ができることで私は楽しみが増え、また趣味を活かして大勢の人が喜んでくださるので、とても幸せな気分になれます。今では、ボランティアが「私の生きがい」となっています。



大森 千鶴子さん  
福祉施設などでの  
手芸ボランティア

### 利用者さんに頼られて、私の居場所ができました。

私が活動する障がい者通所施設チャレンジサポートたかはま（沢渡町四丁目）を知ったのは、傾聴ボランティア養成講座（平成23年度実施）で施設を見学した時です。その際、利用者の皆さんが元気に挨拶をされる礼儀正しさに感心し心が洗われ前向きな気持ちにさせてくれたことを今でも鮮明に覚えています。その時から、障がいのある方と関わりのもてるボランティアができたらいなと思い、気軽に参加できるいきいき健康マイレージのボランティア活動を知り早速登録し活動をはじめました。

今では、利用者の皆さんが私の訪問を心待ちにしてくれ、チャレンジサポートの活動が、私の居場所をひとつ増やしてくれました。

バリ取り作業は、今ではベテランですよ。



犬童 公子さん  
チャレンジサポートたかはま  
でのふれあいボランティア